



2026年3月26日  
第191号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

3月26日号

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から今年の3月11日で15年を迎えた。震災から復興途上にある東北地方。その中でも未だに復興の道標も描くに描けない場所がある。福島第一原子力発電事故による放射性物質が拡散した福島県の一部の地域だ。今現在も帰還困難区域に指定されている。目に見えない放射能の脅威は線量計の数値でしか見ることができない。震災当時、テレビで福島第一原子力発電所の建屋が水素爆発により吹き飛ばす映像を見たとき、大変なことが起きたと大騒ぎになった。しかし、今その時の恐怖をどれくらいの人が思い描くであろうか。その時の思いを忘れてしまったかのように原発再稼働への道を突き進もうとしている。

新潟県にある柏崎刈羽原子力発電所も東日本大震災以降、運転を停止していたが、6号機の再稼働に向け準備を進めていた。再稼働したかと思えば停止するなど、不安定な状況となっている中で果たしてこのまま再稼働して良いのだろうか。そもそも、原子力発電そのものは安全なものなのか。私は現地踏査や平和研修などを通じて原子力発電所＝核であるということを学んだ。唯一の被爆国である日本。81年前の太平洋戦争でヒロシマ・ナガサキに原爆が使用されたこと、15年前の原子力発電所事故で何を教訓にしてきたのか。核保有について、各国で議論しているが、核を保有するということは攻撃対象になるということ。それがたとえ電力という市民生活のためであってもだ。

今、世界情勢は大きな局面を迎えている。世界各地の戦争を見ても真つ先に狙われるのはインフラ設備だ。それは私たちが働く鉄道も同じことである。自国の経済活動のために市民の命が脅かされても良いのだろうか。今こそ平和で安心して暮らしていくために、私たちに何ができるのか。真実を見抜き、ともに行動していく仲間をつくり出すために立ち上がろう！ (A・E)

### イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。